

2019 年度  
第 153 回日商簿記検定目標  
**直前ヤマ当て模試**  
**問題用紙**

3 級

(制限時間 2 時間)

**資格★合格クリアール**

第1問 (20点)

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	普通預金	定期預金	受取手形
売掛金	クレジット売掛金	未収入金	前払金	仮払金
貯蔵品	仮払消費税	仮払法人税等	建物	備品
差入保証金	建物減価償却累計額	備品減価償却累計額	貸倒引当金	支払手形
買掛金	前受金	仮受消費税	所得税預り金	社会保険料預り金
資本金	利益準備金	繰越利益剰余金	売上	受取手数料
受取利息	固定資産売却益	仕入	給料	支払家賃
通信費	支払手数料	旅費交通費	貸倒損失	貸倒引当金繰入
減価償却費	固定資産売却損	租税公課	消耗品費	雑費

- 今週、交通系ICカードによって電車移動による運賃¥23,000を支払うとともに、消耗品¥9,000 および茶菓子¥3,000の購入を行っていたため、その記帳を行う。なお、ICカードには現金¥50,000をチャージし、仮払金として処理していた。
- 店舗における1日分の売上の仕訳を行うにあたり、集計結果は次のとおりであった。また、合計額のうち¥54,000はクレジットカード、残りは現金による決済であった。消費税については、税抜方式によって処理する。

売上集計表			
X3年11月17日			
品物	数量	単価	金額
ふんわりこしあんパン	340	140	¥ 47,600
バターたっぷり濃厚あんパン	180	280	¥ 50,400
超高級熟成カレーパン	150	540	¥ 81,000
消費税			¥ 14,320
合計			¥193,320

- 売掛金¥500,000(前期の売上げにより生じた分は¥140,000、当期の売上げにより生じた分¥360,000)が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は¥250,000である。
- X5年2月1日に取得した備品(取得原価¥480,000、残存価額:ゼロ、耐用年数8年、定額法により償却、間接法により記帳)が不要になったので、X8年8月31日に¥160,000で売却し、代金は翌月末に受け取ることにした。なお、決算日は毎年3月31日であり、当期首から売却時点までの減価償却費は月割りで計算すること。
- 事務所の賃借契約を行い、下記の振込依頼書どおりに当社普通預金口座から振り込み、賃借を開始した。仲介手数料は費用として処理すること。

振込依頼書	
株式会社神戸三ノ宮商事 様	株式会社神戸元町不動産
ご契約ありがとうございます。以下の金額を下記口座へお振込ください。	
内容	金額
敷金(賃料4ヶ月分)	¥1,440,000
初月賃料	¥ 360,000
仲介手数料	¥ 240,000
合計	¥2,040,000
神戸銀行花隈支店 普通 4433221 カ) コウベモトマチフドウサン	

第2問 (10点)

次の資料にもとづき、下記の各問に答えなさい。

[11月における商品Aの状況]

11月1日	前月繰越	200個	@ ¥400
6日	仕入	200個	@ ¥420
10日	売上	160個	@ ¥690
13日	仕入	240個	@ ¥430
15日	仕入戻し	80個	(13日仕入分)
20日	売上	220個	@ ¥700
23日	売上戻り	20	(20日売上分)
24日	仕入	200個	@ ¥424
28日	売上	140個	@ ¥705

1. 商品の払出単価の決定方法として移動平均法を用いて、商品有高帳に記入しなさい。なお、仕入戻しについては払出欄に記入し、売上戻りについては受入欄に記入すること。
2. 商品の払出単価の決定方法として先入先出法を用いた場合における、商品Aの(1)当月(11月)の売上総利益と(2)次月繰越高を求めなさい。

第3問 (30点)

次の資料に基づいて、答案用紙の5月末日の合計残高試算表と売掛金および買掛金の明細表を作成しなさい。なお、合計残高試算表の勘定科目の( )内には、適当な勘定科目を記入すること。

資料Ⅰ X9年5月24日現在の合計試算表

合 計 試 算 表		
X9年5月24日		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
3,225,000	現 金	2,025,000
6,055,000	当 座 預 金	3,600,000
500,000	定 期 預 金	
1,350,000	受 取 手 形	900,000
3,170,000	売 掛 金	2,100,000
680,000	前 払 金	620,000
750,000	繰 越 商 品	
900,000	備 品	
750,000	支 払 手 形	1,050,000
1,950,000	買 掛 金	2,600,000
	借 入 金	1,800,000
80,000	所 得 税 預 り 金	80,000
100,000	社 会 保 険 料 預 り 金	100,000
	資 本 金	3,000,000
	繰 越 利 益 剰 余 金	300,000
180,000	売 上	8,480,000
	受 取 利 息	60,000
4,980,000	仕 入	120,000
1,640,000	給 料	
450,000	支 払 家 賃	
75,000	水 道 光 熱 費	
26,835,000		26,835,000

資料Ⅱ X9年5月25日から31日までの諸取引

25日 手付金充当による仕入：千葉商店 ￥60,000

当 座 仕 入：茨城商店 ￥50,000

給 料 支 払 い：支給総額 ￥420,000 所得税源泉徴収額 ￥25,000 社会保険料の従業員負担分 ￥22,000

差引支払額は当座預金より振込み

26日 手 形 仕 入：茨城商店 ￥100,000 埼玉商店 ￥60,000

掛 仕 入：千葉商店 ￥180,000 茨城商店 ￥165,000 埼玉商店 ￥150,000

手 形 貸 付 け：東京商店に対して￥300,000を貸し付け(利率年2%、期間1年)、利息差引後の金額で小切手を振り出した。

27日 掛 売 上：大阪商店 ￥146,000 神戸商店 ￥180,000

掛 返 品：茨城商店 ￥12,000 埼玉商店 ￥1,500

電子記録債権：大阪商店に対する売掛金￥190,000について、同店の承諾後、電子記録債権の発生商品の陳列棚￥240,000を現金により購入

本月份家賃支払い：当座預金より振込み ¥112,500

28日 手形売上：大阪商店 ¥80,000 京都商店 ¥90,000

掛売上：京都商店 ¥135,000

茨城商店に振り出していた約束手形¥150,000の期日が到来し、当座預金口座から引き落とされた。

掛代金支払い：当座預金より振込み 千葉商店 ¥137,000 茨城商店 ¥200,000 埼玉商店 ¥120,000

29日 掛代金回収：得意先振出しの小切手で回収 京都商店 ¥195,000 大阪商店 ¥160,000 神戸商店 ¥225,000

茨城商店への掛代金の支払いとして、同店宛ての約束手形¥130,000を振り出して支払った。

掛返品：京都商店 ¥5,000 大阪商店 ¥3,000 神戸商店 ¥4,000

30日 電子記録債務：埼玉商店に対する買掛金¥120,000について、同店からの請求に基づき、電子記録が行われた。

本分水道光熱費支払い：当座預金口座からの引落とし ¥26,000

31日 当座預金預入れ：29日に受け取った小切手のうち、神戸商店分を取引銀行の当座預金に預入れ

大阪商店振出しの約束手形¥200,000が期日をむかえ、当座預金口座に入金された。

千葉商店に対し、商品の手付金¥40,000を現金で支払った。

定期預金¥500,000が期日をむかえ、利息受取額¥2,500を加えた金額を1年満期の定期預金として継続した。

借入金¥900,000およびその利息¥36,000を、当座預金から振り込んで支払った。

#### 第4問 (10点)

当社(山口商事株式会社)は、毎日の取引を入金伝票、出金伝票、および振替伝票に記入し、これを1日分ずつ集計して仕訳日計表を作成している。当社のX9年11月1日の取引に関して作成された次の各伝票にもとづいて、仕訳日計表を作成し、総勘定元帳(一部)と仕入先元帳における各勘定へ転記しなさい。

入金伝票 No.101 売掛金(博多商会株式会社) ¥30,000	出金伝票 No.201 買掛金(岡山商事株式会社) ¥14,000
入金伝票 No.102 売掛金(株式会社宮崎商店) ¥26,000	出金伝票 No.202 買掛金(広島物産株式会社) ¥27,000
入金伝票 No.103 建物 ¥400,000	出金伝票 No.203 支払家賃 ¥40,000
入金伝票 No.104 受取利息 ¥12,000	出金伝票 No.204 消耗品費 ¥7,000
振替伝票 No.301 支払手形 ¥50,000 当座預金 ¥50,000	振替伝票 No.303 仕入 ¥60,000 買掛金(広島物産株式会社) ¥60,000
振替伝票 No.302 仕入 ¥46,000 買掛金(岡山商事株式会社) ¥46,000	振替伝票 No.304 固定資産売却損 ¥100,000 建物 ¥100,000

第5問 (30点)

次の資料Ⅰ～Ⅲにもとづいて、当期(X8年4月1日～X9年3月31日)の貸借対照表と損益計算書を完成しなさい。

資料Ⅰ 決算整理前残高試算表

X9年3月31日			
現金	257,700	支払手形	864,300
現金過不足	9,400	買掛金	677,700
当座預金	1,999,900	借入金	3,600,000
受取手形	1,066,800	仮受消費税	1,900,000
電子記録債権	980,000	貸倒引当金	43,500
売掛金	713,200	減価償却累計額	3,150,000
繰越商品	879,000	資本金	4,000,000
建物	7,500,000	利益準備金	100,000
備品	2,700,000	繰越利益剰余金	807,500
仮払金	200,000	売上	14,281,000
仮払法人税等	360,000	受取手数料	144,000
仮払消費税	720,000	受取家賃	630,000
仕入	8,469,000		
給料	3,047,000		
通信費	600,000		
支払保険料	387,000		
租税公課	156,000		
消耗品費	45,000		
支払利息	108,000		
30,198,000		30,198,000	

資料Ⅱ 未処理事項等

- (1) 決算日において、現金過不足¥9,400の原因をあらためて調査した結果、通信費¥16,000の記入もれが判明した。残りの金額は原因が不明であったので、適切な処理を行う。
- (2) 仮払金は、株主に対し、繰越利益剰余金を財源とする配当金を支払った際に計上したものである。配当に伴い利益準備金を¥20,000積み立てることも決議されているが、未処理となっている。

資料Ⅲ 決算整理事項

- (1) 期末商品棚卸高は¥810,000である。
- (2) 受取手形、電子記録債権および売掛金の期末残高に対して、貸倒実績率2%により貸倒引当金を設定する
- (3) 建物および備品の減価償却は、次の条件にもとづいて行う。  
 建物：定額法、残存価額は取得原価の10%、耐用年数30年  
 備品：定額法、残存価額ゼロ、耐用年数6年
- (4) 通信費で処理した84円切手600枚と、租税公課で処理した収入印紙¥30,000が未使用となっているため、これらを貯蔵品勘定に振り替える。
- (5) 家賃は、毎年同額を1月1日に向こう1年分として受け取っており、本年も同額を受け取っている。
- (6) 支払保険料は、X8年10月1日に向こう1年分を支払ったものであり、未経過分を適切に処理する。
- (7) 借入金は、X9年1月1日に期間1年、利率年4%で借り入れたものである。利息は元本返済時にまとめて支払う。
- (8) 消費税は税抜方式で処理している。
- (9) 当期分の法人税等が¥600,000と計算されたので、仮払法人税等との差額を未払法人税等として計上する。